

**市政に
全力投球!**

市政ニュース2019年新春号

熊本市議会議員 上田よしひろ

上田よしひろ

上田よしひろ事務所

〒862-0975

熊本市中央区新屋敷 3-7-5

TEL 096-335-8100

FAX 096-335-8101

e-mail ueda-minsyu@sea.plala.or.jp

謹賀新年 飛躍の年となるよう全力投球します!!

皆さまへのご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は、一年を表す言葉「災」と示された通り、「大阪北部地震」、「西日本豪雨」、「台風からのゲリラ集中豪雨」、「震度7を観測した北海道胆振地震」に代表される大規模自然災害により、多くの被災地・被災者を出した『災害の年』でありました。犠牲・被災された皆さまに対し、お悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

また政治的には、政権与党が圧倒的な数の力により「働き方改革」、「外国人の入国管理法見直し」、「水道法改正」などが強硬的に採決され、国民の誰もが『もう少し国会で議論され、国民理解を得られる政治』に対し、疑問を持った1年であったと思います。

加えて、民進党が分裂したことによる「立憲」・「国民」民主党が、野党勢力をリードする政党として、安倍政権に対峙してきました。その評価に対しては、様々であると考えますが、『私は、現在「無所属」として政治活動を展開』しています。現在の「この立ち位置」に対しては、必ずしも最善ではありませんが、熊本の地方議員としては、如何なる立場であろうとも、『市民生活の向上』と『応援いただく皆さまに役立つ議員』が私の思いであります。引き続きまずご指導・ご支援をお願い申し上げます。

さて本年は、平成の最後で新しい年号を迎える年となります。熊本にとっては、熊本地震から3年目、4月には「熊本市議会議員選挙」が行われます。身の引き締まる思いで新年を迎えております。

震災から復興を確かなものとし、桜町・駅前再開発の姿が見える本年が賑わい元年となれるよう、更には少子高齢社会を見据えた、安心・安全ある政令市くまもとを築けるよう、『復興から賑わい、安心ある政令市くまもと』づくりをキーワードに、これまで以上に“市政に全力投球”します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



12月議会報告



熊本市長選挙の影響で開会が遅れた12月議会は、2月11日開会し、27日までの17日間の日程で開催されました。2期目を迎えた大西市長の「2期目マニフェスト」や、市役所本庁舎の耐震課題からの「市役所建て替え」に対する一般質問が行われる中、約8億7千万余の増額補正予算に加え、市内繁華街における飲食店の客引きの弊害をなくすための『客引き禁止条例』等を可決・決定しました。

また、民間活力に運営されている市施設の次年度(平成31年)契約を結ぶための『事前の承認行為＝債務負担行為』(88件、総額94億7300万円余)について、議論し可決・成立しました。

平成31年は、引き続き「熊本地震からの復興」を推し進めることを最優先課題としながらも、熊本市にとって大きなイベント開催や、桜町再開発事業の竣工・熊本城ホール完成といった将来の熊本市を左右する事業が続々と姿を表す年となります。

『復興』=まだ道半ば=

平成28年熊本地震から本年度で3年目を迎えます。震災関連死を含み270名もの尊い命を奪い、想定を超える11万人もの人が避難したことを昨日のこのように思い出されます。現在では「被災地くまもと」の姿は数少なくなり、解体されたビルや住家の跡地には、新たな建造物・駐車場などが整備され、道路・橋梁・河川・公共建築物も、ほぼ100%が改修されています。

しかしながら、現在でも『約5,300世帯／11,000名』にも及ぶ方々が、不自由で将来不安を抱えながら仮設住宅で生活されています。入居期限の延長はされているものの、条件付きであることや、次なる入居期限までの生活再建は大変困難であります。加えて、市内8ヶ所に建設中の「災害公営住宅」(全326戸)の完成時期も、入札不調等の理由で遅れています。一日も早い将来的にも安心できる恒久的な住まい確保が図られるよう取り組んでいかなければなりません。

また、南区近見を中心とした地震による「液状化現象で崩壊した宅地の改修」については、改修工法が確定し、今から住民説明・改修工事となります。熊本城域と同様に大変息の長い取り組みとはなりますが、着実に被災宅地を元の姿へ戻していかなければなりません。



確定し、今から住民説明・改修工事となります。熊本城域と同様に大変息の長い取り組みとはなりますが、着実に被災宅地を元の姿へ戻していかなければなりません。

『賑わい』=創造スタート=

平成31年に控えたトピックス

①桜町再開発

本年9月から、「商業施設(SAKURAMACHI)、ホテル(トラスティプレミア熊本)、バスターミナル(熊本桜町ターミナル)」が竣工され、また「熊本城ホール」が本年12月開業します。加えて、花畑・辛島公園を一体的に整備「シンボルロード」化する工事も進められ、「中心市街地の姿が一変」します。



②熊本駅前整備

現在、県とJRで「在来線駅舎」と「JR駅ビル」の整備が推し進められています。熊本駅(白川口)の整備により、人やバス交通の流れが変わり、新たな拠点となることが期待できます。

③熊本市民病院の開院

被災した市民病院が、東町にて本年10月より再開します。ドクター・看護師確保等の課題はありますが、市民にとって安心ある医療体制が再構築されます。

④ラグビー、ハンドボール世界大会

本年9月から年末にかけて「ラグビーワールドカップ」と「女子ハンドボール世界選手権」が熊本市を中心に開催されます。国内外からの来熊者に、復興をアピールするとともに、観光都市くまもとを目指す年となります。

⑤その他

市電延伸や市役所本庁舎の建て替えといった「財源確保に課題」のある取り組みについても、本格的な議論がスタートする1年です。

『安心ある』政令市くまもと

復興を進めながら、賑わいを創る平成31年となりますが、市民生活上にある根底は、「日々の暮らしと将来に安心の持てる政令市くまもとを創る」ことであると確信します。

人口減少が進む中、熊本市では「今後2050年には、人口が1割減少し70万人を切る」と想定されており、「年金・医療・介護」といった社会保障の衰退が懸念されます。労働力人口も減少し、市域経済への影響も懸念されます。以下に掲げる諸課題の前進なくして政令市くまもとの発展は無いと考えます。

- ①子育て世帯が安心して子どもを産み育てる環境づくり
- ②若者・学卒者が、地元熊本に就職を希望できる環境づくり
- ③高齢者の皆さんが、住み慣れた地域で安心して、人と繋がりがあえる環境づくり
- ④障がいを持つ方が、幅広く社会参加できる環境づくり
- ⑤児童・生徒が健やかに学び・成長できる教育環境づくり



復興から賑わい！
安心ある政令市くまもとへ

これからも 市政に全力投球！